

来年度予算 収支不足13億円…桜の植樹で基金取り崩し？

市政の私物化『見過ごせない！』

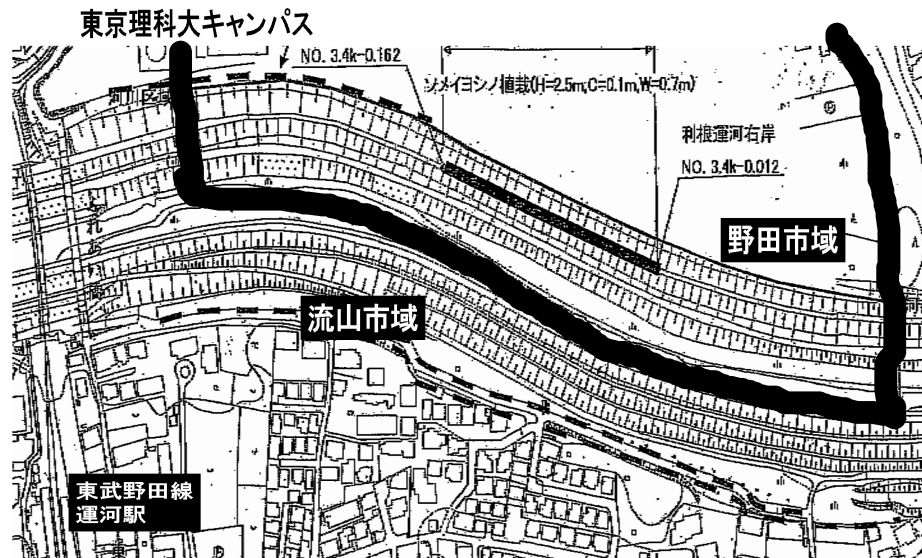


日本共産党市議会議員

小田桐たかし

方が大きく問われていました。にもかかわらず、野田市域への『桜の植樹』101万9千円は行政上、計画的な位置づけもなく、市民的運動もありません。しかも、財源は災害など緊急時用の積立金『財政調整積立基金』からの取り崩しです。（小田桐たかし市議の討論概要は裏面）

議員からは「金銭感覚がマヒしているのでは？」「震災・津波・原発事故の被害があった相馬市との少年スポーツ交流補助金まで削減して積立てた基金から取り崩してもやる事業なのか」など厳しい指摘が相次いでいました。



異例

補正予算案を修正可決

12月18日（水）流山市議会最終日、補正予算案に対する採決が行われ、総務委員会の審査結果通り、日本共産党小田桐たかし市議が提出した「桜を野田市域に植樹するために、101万9千円を拠出する」としていた項目を全額削除する修正案」を賛成15人、反対11人で、可決されました。

流山市議会で、補正予算案が減額修正・可決するのは異例。

12月議会一般質問では、小田桐市議の追求で来年度予算が現時点で13億円もの収支不足があることが判明。計画的な行政財政運営の在り

議案89号H25年度流山市一般会計補正予算(第6号)について、委員長報告の通り、修正部分に対する賛成討論を行います。野田市域への桜の植樹について、全額削除という重い判断を議会が下さざるを得ない理由は、長年の維持管理費も含む全額負担を流山市民が背負い、しかも野田市域に桜を植樹しなければならぬ理由も、また、緊急時に備え、積立ててきた財政調整積立基金から取り崩す理由も、そして、何故、今なのかという理由も、全てが無計画で、無秩序なものになっているからです。

総務委員会の質疑では、3点の問題が明確になりました。第一に、自治基本条例や市民参加条例に泥を塗ることです。『市民が主人公』『市民自治始めます』と何度も市民が協議し、朝の駅頭まで行いました。議会内でも苦勞しながらまとめられた経緯があります。なのに、今度の植樹計画は、流山・野田両市長に市民から要望書が提出されたわけでもなく、市民運動が広がっているわけでもない。両市議会を取り上げられた経緯もなく、後期基本計画や中期実施計画にも位置づけ無し。つまり、どこからか天の一声で、101万9千円もの公金が自由勝手に使われる：こんなことが許されるなら、『市民自治も市民参加は単なるお飾り』という事態を議会が容認したことになります。

第二に、歴史に汚点を残すことです。相馬ユートピアや義務教育施設など、他市にまたがる形でもやむにやまれず施設整備を実施してきた歴史や、市境における課題を関係自治体が共同で解決してきた歴史を振り返っても、今度の植樹計画は前代未聞の異例です。当初から議会に相談もなく、ましてや、公金で報酬を払い『まちづくり顧問』に採用している世界的な森づくりの第一人者、横浜国立大学名誉教授・宮脇先生への相談もありません。桜の苗を無料で寄付しているボランティア団体へも相談なしです。私は、野田市河川課を訪問し、いきさつを確認しましたが、「流山市議会では桜の植樹予算が削除されても、野田市としては一向に構わない。自前の資金が宙に浮くわけでも人手が取られることもなく、何の影響もない。信頼が崩れるなんてありえない」とのことでした。野田市との信頼関係を手前勝手に持ち上げ、修正項目に反対する姿は、二元代表制でもなんでもありません。行政追

認議員であることを世間に示すものになりかねません。

第三に、財政における規律や計画性の破綻です。井崎市長は、前市政を危機的財政と揶揄し就任しましたが、歴代市長が積立てた特定目的基金を大幅に取崩し、かわりに、緊急用だと財政調整積立基金へドンドン積立てました。時には相馬市の子どもたちとのスポーツ交流補助金、市民まつり補助金を削減し、積立てました。なのに、植樹計画では、財政部の「野田市の負担はないのか」というまっとうな進言も脇に置かれ、取り崩したのです。財政の規律や計画性の破たんに機敏で厳格な姿勢をとることができない議会・議員が何をチェックするのでしょうか。

最後に、市長。利根運河を観光拠点や市民憩いの場としたいなら、河川課・商工課・みどりの課などが連携し、財政的裏付けをもつた基本計画を作成し、それにもとづく施策展開ということぐらいは何故できない？ただでさえ、市長の定員適正化により市職員体制が弱くなっている中で、桜の植樹を担当したみどりの課の業務を振り返ってください。昨年、市長が「無理だ」と言ってきた前言を突如変更し、市民総合体育館建て替えのUR全面委託から市直轄に切り替え、みどりの課に担当室を設けました。URによる設計変更も指示せず、そのまま進め、3月議会では予算の一時凍結を発表し、実施設計が遅れました。それでも、特別委員会への対応、事業費圧縮に向けた折衝、入札不調における随意契約等々、職員は対応してきたのです。一方で、市民の森の放射能測定をHPへ掲載し忘れたり、公園遊具の塗装等の小破修繕に目が行き届かない、既存公園や道路植栽の管理に対する市民要望には「予算がない」と頭を下げてきたのです。：少ない職員数で余分な仕事を押し付けられた担当課・振り回された職員の苦しさは何故わからないのですか。

議員のみなさん。今度の補正予算における修正案への賛否は、天の声の一声が左右する街づくりか、それとも市民みんなで汗を流し、築く街づくりかが迫られると同時に、権力に首を垂れる議会なのか、それとも、二元代表制としての役割を發揮し、市政の私物化を許さぬ議会なのかも迫られていると指摘し、修正案への賛成討論を終わります。